

STAGE+を楽しむ(181)(HP 収載)
—辻井伸行のバッハ、リスト、カプースチン—

1. 始めに

前報(180)に引き続き、STAGE+の辻井伸行のバッハ、リスト、カプースチンの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は辻井伸行のバッハ、リスト、カプースチンの演奏を選びました。

辻井伸行がバッハにリスト、カプースチンなどを演奏

ヴェルビエ音楽祭 (2024 年)

収録日: 2024 年 7 月 21 日

2024 年 10 月 22 日までの期間限定

ピアニストの辻井伸行は、美しい音色と心を打つ表現力によって聴衆を魅了してきました。本映像は 2024 年のヴェルビエ音楽祭の様子が収められています。辻井伸行は 22 年に初めてこの音楽祭にデビューし、大好評を得ました。今回はバッハにリスト、ラヴェルにカプースチンという色とりどりのプログラムで出演。特に注目したいのがカプースチンのエチュード。華麗な技巧と軽快なジャズのリズムとが融合したこの曲集は辻井にとって重要なレパートリーです。音楽祭の雰囲気と相まってより魅力的な演奏をお楽しみ頂けることでしょう。

ソリスト:

辻井伸行 (ピアノ)

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ フランス組曲第 5 番ト長調 BWV 816

フランツ・リスト 《ヴェネツィアとナポリ》 S. 162 (巡礼の年: 第 2 年補遺)

モーリス・ラヴェル 《亡き王女のためのパヴァーヌ》 M. 19

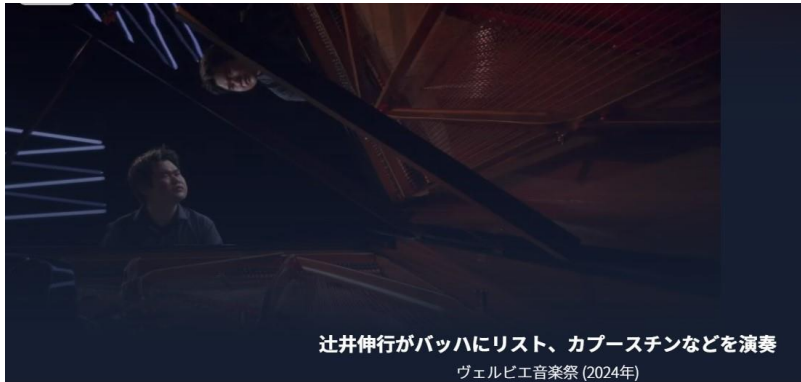
ニコライ・カプースチン 8つの演奏会用エチュード op. 40

セルгей・ラフマニノフ 《ヴォカリーズ》 op. 34-14

(アラン・リチャードソンによるピアノ編曲版)

フランツ・リスト パガニーニの主題による大練習曲 S. 141 より 第 3 番:

ラ・カンパネラ



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

バッハのフランス組曲第5番は、お馴染みの曲で、しみじみとした味わいを聴かせてくれます。

リストの《ヴェネツィアとナポリ》は、初めて聴くものですが、歌曲を思わせるような親しみを感じます。

ラヴェルの《亡き王女のためのパヴァーヌ》は、お馴染みの曲のピアノ編曲版でじっくりと聴かせてくれます。

カプースチンの8つの演奏会用エチュードは、初めて聴くもので、ジャズ調の軽快な曲です。

ラフマニノフの《ヴォカリーズ》は、アンコール曲のようで、独特の抒情性を打ち出しています。

リストのラ・カンパネラは、これもアンコール曲のようで、鮮やかで美しいカンパネラです。

辻井の演奏は、ラ・カンパネラでもまるで指先に目があるかのような、速いパッセージでも曲の表情を捉えながら狂いなく弾いていきます。

前報(180)のヴェルビエ音楽祭のイム・ユンチャンの演奏と同じく、音質的にはライブ感を満喫できる水準です。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、前報(180)のヴェルビエ音楽祭のイム・ユンチャンの演奏と同じく、音質的にはライブ感を満喫できる水準です。

以上